

5 同音異義語と関連付けて、漢字の表意性・表音性の理解を深める指導について ～国語辞典を活用して～（5・6年）

<p><b>校歌</b></p> <p>朝会で こうかを 歌う。</p>	<p><b>効果</b></p> <p>薬の こうかが 現れ始めた。</p>	<p><b>強力</b></p> <p>きょうりよくなチームに なる 同音異義語</p>	<p><b>協力</b></p> <p>全員できょうりよくなる</p>	<p><b>楽器</b></p> <p>がつきを演そうする</p>	<p><b>学期</b></p> <p>二がつきが始まる</p>	<p>【板書事項】</p> <p>カルタづくりをしよう</p> <p>＊あついで</p> <p>・厚い本 ・熱いお湯 ・暑い日 ・厚いステッキ ・熱い風呂</p> <p>＊放課後に友だちと（合う・会う）</p>
<p>【指導の流れ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「あついで」と黒板に書き示す。 「空欄に入る言葉を書きなさい。」</li> <li>2 「本、一日、お湯、お風呂、卵焼き…」 空欄に入る言葉によって「あついで」が異なる漢字となることを考えさせる。</li> <li>3 「あついで」を に対応した漢字に直しなさい。</li> <li>4 「厚い本、暑い一日、熱いお湯…」</li> <li>5 別な語例について示し、正誤を考えさせ、漢字の表意性について説明する。</li> <li>6 「放課後に友だちと（合う・会う）」は、どちらが正しいでしょう。</li> <li>7 同音異義語（同訓異字）を調べる場合は、国語辞典が有効であることを実感させる。 「国語辞典を使って、発音は同じだけれど違う意味をもつ言葉を三組集めましょう。」</li> <li>8 「楽器・学期」「強力・協力」「校歌・効果」</li> <li>9 カルタづくりの方法を示す。 「集めた言葉でカルタをつくりましょう。 絵札には『正しい漢字』、読み札には『その漢字（漢語）を用いる文』を書きます。」</li> <li>10 ペア・グループの形態でカルタ遊びを行う。 「作ったカルタを出し合って、隣の人とカルタ遊びをしましょう。」</li> </ol>						
<p>【留意点】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 漢字の力を付けるための「カルタづくり」を行うことを最初に伝えておく。空欄に入る言葉は思いつくだけノートに書かせる。</li> <li>2 ここでは、まだ辞書を使用させない。文脈に即して、自分の語彙で考えさせる。</li> <li>3 発音が同じで意味が違う語のことを、「同音異義語」ということを板書し、補説する。</li> <li>4 辞書の引き方（能力）で個人差が大きい場合は、凡例となるように、「がつき」を一斉に調べ、楽器・学期の違いを板書で示す。</li> <li>5 読み札の「文づくり」については、辞書の用例文を参考にさせてもよい。</li> <li>6 カルタ遊びの流れ 教師が読み札を読む。 正しい漢字の書いてある札を取る。 ペアで全部取り終わったら、グループ（五～六名）で行う。</li> </ol> <p>参考資料 森竹高裕氏の実践を参考に改編</p>						